

第5章 環境について自ら考え行動する人づくり

第1節 学校における環境教育の促進

1 環境教育の実施体制の整備

(1) 里山里海湖学校教育プログラム集

【自然環境課】

里山里海湖について、小中学校教員が児童・生徒を指導するためのプログラムを、現場の先生方の意見を踏まえながら作成しました。

表5-1-1 これまでに作成したプログラム

	プログラム名
26年度	三方五湖周辺体験プログラム
27年度	北潟湖周辺体験プログラム 六呂師高原周辺体験プログラム
28年度	丹南地区周辺体験プログラム
30年度	三方五湖周辺体験プログラム改訂 (福井県年縞博物館を追加 他)
元年度	北潟湖周辺体験プログラム改訂 六呂師高原周辺体験プログラム改訂
2年度	丹南地区周辺体験プログラム改訂
3年度	三方五湖周辺体験プログラム改訂
4年度	北潟湖周辺体験プログラム改訂 六呂師高原周辺体験プログラム改訂

平成26年度から作成している体験プログラムは、身近な里山里海湖を実際に体験することにより保全の意識を高め、自主的な活動を促すことを目的としており、すべての小中学校へ配布しました。これにより、小中学校の教員が、「里山里海湖とは何か」、「里山里海湖でどんな活動ができるのか」を知ることができる手引書としての活用と「里山里海湖の恵み」を児童・生徒に実体験させることができるものと期待しています。

さらに、それぞれの地域の特性を活かした体験活動を実施することで、より福井の里山里海湖の魅力を実感し、保全・再生の意識を向上させていけるものと考えています。

今後とも、系統立てた環境教育を推進できるよう、学校の年間指導計画に位置付けていけるよう努めていきます。

表5-1-2 令和3年度にプログラムを体験した学校数・人数

	学校・団体数	児童・生徒数
三方五湖	27校・団体	869名
北潟湖	4校・団体	113名
六呂師	19校・団体	1,012名
丹南	336校・団体	13,395名
合計	386校・団体	15,389名



学校教育プログラム「どんぐりアート」

(2) 環境・エネルギー教育支援事業

【義務教育課・高校教育課】

県内の小・中・高等学校を対象に、地域の特色に応じた実践を通して、児童・生徒の理解を深め、自ら考え、判断し、よりよく環境・エネルギー問題を解決する力を育成することをねらいとした「環境・エネルギー教育支援事業」を推進しています。

小学校では、発電や蓄電について学習する教材の活用やエネルギー教育関連施設の見学を通して、環境・エネルギー教育を進めています。

中学校では、ボルタ・ダニエル電池実験器や発電実験器等を購入し、実験や観察を通して放射線の性質や様々な発電方法について正しい知識と科学的な理解を深める授業を充実させています。

高等学校では、クルックス管を利用して放射線の特性を学んだり、発電の原理やクリーンエネルギーについて探究的に学習したりするなど、発展的な環境・エネルギー教育を進めています。さらに、専門家による講演会や施設見学会等を通してエネルギー問題や放射線に対する理解を深める取組みを実践しています。

今後も、各校の取組みを県内全体に広め、環境・エネルギー教育の一層の普及に努めていきます。

◆第2部 分野別施策の実施状況

表 5-1-3 環境・エネルギー教育支援事業取組状況

	2年度	3年度	4年度
環境・エネルギー教育に関連する施設等の見学	10校	12校	16校
講師による講演や意見交換会での指導および助言	3校	3校	2校
エネルギー教育に関する資材・機材の活用方法の研究	81校	64校	98校



環境指導者向けの研修の様子

(3) 福井県気候変動教育プログラム

【環境政策課】

地域で地球温暖化防止や気候変動の適応に向けた活動を企画・実施できる人材を育成するため、ドイツの気候変動教育プログラムを参考に開発した福井県独自の気候変動教育プログラムの普及を進めています。

プログラムは、基礎編「福井県版ミステリーワークショップ」、応用編「課題解決ワークショップ」の2つで構成されています。

基礎編「福井県版ミステリーワークショップ」では、24枚1組の「福井県版ミステリーカード」をグループごとに関連付ける作業を通して、気候変動によりどのような現象が発生しているかを把握し、気候変動には様々な事柄が複雑に絡み合っていることを学びます。

熱中症で緊急搬送される人は年々増加傾向にあり、高齢者が特に影響を受けやすいとされている。今後、猛暑日の増加にともなう危険が増大すると予想されている。

年齢区分別、熱中症搬送者比率 (2018年7月～9月)

■ 65歳以上 48.1%
■ 55～64歳 37.0%
■ 45～54歳 14.0%
■ 15～44歳 1.0%

※ 出典：熱中症対策推進協議会「熱中症対策推進協議会」

福井ブランド「福井梅」は、種が小さくて果肉が厚く高い評価を得ている。しかし近年、農家の梅林さんは、「福井梅」に日焼け被害等が発生して悩んでいる。

福井梅 (内子)

日焼け梅

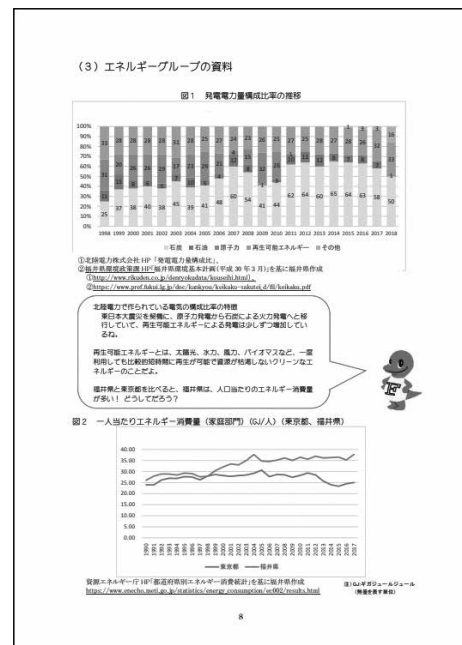
※ 出典：「ふるさと」から見る気候変動化(2018年3月、福井県環境教育課 福井県農業試験場「ふるさと」から見る気候変動化)

「福井県版ミステリーカード」の例

応用編「課題解決ワークショップ」では、本県の交通・エネルギー・農林水産業の統計データから県の抱える課題をグループで分析し、将来の理想像を考え、これを実現するために必要な解決策をジグソー法の手法を使って考えます。

令和4年度は、学校教育や社会教育でのプログラムの普及と活用を図るため、中学校・高校の教員を対象としたプログラム体験会、環境指導者向けの講師養成を目的とした研修を実施しました。

令和5年度は、学校教育でのさらなる普及を図るため、教員に対してプログラムの宣伝を行っていく予定です。



統計データ集の一例
(福井県のエネルギーに関する統計データ)

分野別施策の実施状況

環境について自ら考え行動する人づくり